

2025 年 6 月 25 日作成 Ver.1.7

《情報公開文書》

滑り止めのない履物が転倒・転落に及ぼす影響の調査研究

研究の概要

【背景】

転倒の発生率は医療の質の評価の指標となっています。転倒防止活動は看護ケアそのもの、医療の質・安全活動そのものと言っても過言ではありません。わが国の急性期病棟における転倒率は1.4～4.1/1,000 人・日です。長崎大学病院(以下、当院)の2023年度の転倒発生率は、1.95/1,000 人・日、骨折・頭蓋内出血の合併症の割合は2.67%でした。転倒による骨折・頭蓋内出血は、濃厚な処置を要します。また、有意な機能障害が残れば日常生活に支障をきたすこととなります。転倒・転落を0にすることは難しいですが、合併症を減少する取り組みは重要です。当院では転倒防止として、入院時、術後、リハビリなど多くの場面において滑り止めがある履物を履くことを推奨しています。これまでに履物も滑り止めの有無と転倒による有害事象の関連の検討した報告はありません。我々は、滑り止めのない履物が転倒するだけではなく、有害事象を起こす要因となっているのではないかと考えるに至りました。

【目的】

滑り止めのない履物と転倒による合併症の重症度との関連を明らかにすることです。

【意義】

合併症を発症した患者が転倒時に履いていた履物とその状況が明らかになれば、患者への介入や観察を強化することができ、合併症の程度を最小限にとどめる事ができます。

【方法】

インシデントレポートシステムより、2024 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までの入院中に報告された、全転倒転落患者と骨折・頭蓋内出血を発症した患者を抽出します。転倒時に履いていた履物（滑り止めの有無と種類）と、その時の状況を調査します。

対象となる患者さん

2024 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までの入院期間中に、転倒・転落した 18 歳以上の方。

研究に用いる情報	
●研究に用いる情報 下記の情報を診療録より収集します。 ・患者背景：性別、年齢、入院診療科、入院日 ・転倒・転落アセスメントスコアシート：A（年齢）、B（生活体験）、C（健康レベル）、E（活動レベル）、F（認識）、G（薬剤）、H（排泄）、I（環境の変化）の設問に設けられたチェック結果および評価スコア。滑り止めのない履物の有無はI（環境の変化）に含まれる ・転倒・転落：転倒・転落インシデント発生の有無、発生時間 ・骨折・頭蓋内出血の部位 ・退院情報：退院日 本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。	
研究実施期間	
研究機関長の許可日～2025 年 11 月 30 日	
研究実施体制	
研究責任者	所属：長崎大学病院 安全管理部 氏名：張岳 輝子 住所：長崎県 長崎市 坂本 1－7－1 電話：095（819）7956
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長
問い合わせ先	
【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】 長崎大学病院 安全管理部 張岳 輝子 〒852－8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号 電話：095（819）7956 FAX 095（819）7597	
【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く） 苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200 受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）	